

総合的な学習の時間 - 3 (第1学年) KJ法的な手法によって気付きや疑問を類型化し課題を設定する事例

【学習活動の概要】

1 単元名 美しき里の「よさ」を見つけよう													
2 単元の目標 自分たちが住んでいる地域を知るための様々な体験活動を通して、地域の歴史、自然、産業、環境などの特色に気付き、あらためてその「よさ」を発見するとともに、「美しき里」である地域の一員としての自覚とふるさとを大切にしようとする態度を育てる。													
3 評価規準 【課題設定の力】 ・体験活動等を通して生まれた気付きや疑問を、各自の追究課題として設定している。 【情報収集の力】 ・課題解決に必要な情報を、体験活動や地域の人材との交流、インターネットや書籍等、様々な方法で収集し、各自の追究課題に応じて選択している。 【論理的思考の力】 ・各自の追究課題に応じた活動計画を立て、地域の「よさ」について、比較・分類・関連付けして考えている。 【まとめ発信する力】 ・各自で学んできた地域の「よさ」を工夫してまとめ、分かりやすく伝えようとしている。													
4 教材 本単元で扱う生徒たちが住む地域は、自然環境に恵まれ、古墳や城址など歴史的遺産も多い、いくなれば「美しき里」である。このように恵まれた地域に住んでいる生徒たちであるが、こうした自分たちの地域の特徴や「よさ」を驚くほど知らないのが現状である。 そこで、小学校での「地域の農業について」「漬物作り」「徳川家康と地域の歴史とのかかわり」等の学習との関連を図りながら、地域の「よさ」を発見する活動「地域探訪」を社会科の授業と関連して行う。さらに、地域を知るための様々な体験活動や情報収集を通して、地域の「よさ」に気付き、地域の一員としての自覚をもち、地域を大切にす生徒の育成を目指して単元を構成した。													
5 主な学習活動 (1)単元の展開(全 40時間)													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学習活動</th> <th>言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一次</td> <td>「地域探訪」を通して、地域の自然や歴史等の特徴を知る。(14) ・自分たちの班の「地域探訪」のコースを作成する。</td> <td rowspan="4"> ・地域探訪や地域の人材との交流等によって学んだことを、分かりやすく新聞にまとめ、学級ごとに「地域探訪報告会」を行う。 ・受講したそれぞれの講座で、気付いたことや分かったこと、疑問に感じたこと等を、KJ法的な手法を用いて類型化し、そこから個人テーマを設定する。 ・様々な方法で集めた情報を、これまで体験を通して学んできたことと関連付けながら、個人テーマに応じて比較・分類して追究していく。 ・追究してきた内容を、聞く人に分かりやすくまとめて発表する。 ・お互いの発表を聞き合い、比較して、分かったことや気付いたこと、さらに質問してみたいこと等感想用紙に書く。 </td> </tr> <tr> <td>第二次</td> <td>「地域探訪」での学びを生かしながら「美しき里」について考える個人テーマを設定する。(7:本時5/7) ・「文化」「自然」「産業」「歴史」「環境」の各講座を受講し、疑問や気付きを基にして個人テーマを設定する。</td> </tr> <tr> <td>第三次</td> <td>設定した個人テーマを追究する。(10) ・文献活用、インターネット検索、現地調査、施設訪問、インタビュー等、様々な方法で情報収集を行い、個人テーマを追究する。</td> </tr> <tr> <td>第四次</td> <td>「美しき里全体発表会」を開催する。(9) ・個人発表会を行い、お互いの発表を聞き合っ、全体発表会の代表者を決定する。 ・全体発表会を開催する。 ・これまでの活動を振り返る。</td> </tr> </tbody> </table>		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第一次	「地域探訪」を通して、地域の自然や歴史等の特徴を知る。(14) ・自分たちの班の「地域探訪」のコースを作成する。	・地域探訪や地域の人材との交流等によって学んだことを、分かりやすく新聞にまとめ、学級ごとに「地域探訪報告会」を行う。 ・受講したそれぞれの講座で、気付いたことや分かったこと、疑問に感じたこと等を、KJ法的な手法を用いて類型化し、そこから個人テーマを設定する。 ・様々な方法で集めた情報を、これまで体験を通して学んできたことと関連付けながら、個人テーマに応じて比較・分類して追究していく。 ・追究してきた内容を、聞く人に分かりやすくまとめて発表する。 ・お互いの発表を聞き合い、比較して、分かったことや気付いたこと、さらに質問してみたいこと等感想用紙に書く。	第二次	「地域探訪」での学びを生かしながら「美しき里」について考える個人テーマを設定する。(7:本時5/7) ・「文化」「自然」「産業」「歴史」「環境」の各講座を受講し、疑問や気付きを基にして個人テーマを設定する。	第三次	設定した個人テーマを追究する。(10) ・文献活用、インターネット検索、現地調査、施設訪問、インタビュー等、様々な方法で情報収集を行い、個人テーマを追究する。	第四次	「美しき里全体発表会」を開催する。(9) ・個人発表会を行い、お互いの発表を聞き合っ、全体発表会の代表者を決定する。 ・全体発表会を開催する。 ・これまでの活動を振り返る。
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点											
第一次	「地域探訪」を通して、地域の自然や歴史等の特徴を知る。(14) ・自分たちの班の「地域探訪」のコースを作成する。	・地域探訪や地域の人材との交流等によって学んだことを、分かりやすく新聞にまとめ、学級ごとに「地域探訪報告会」を行う。 ・受講したそれぞれの講座で、気付いたことや分かったこと、疑問に感じたこと等を、KJ法的な手法を用いて類型化し、そこから個人テーマを設定する。 ・様々な方法で集めた情報を、これまで体験を通して学んできたことと関連付けながら、個人テーマに応じて比較・分類して追究していく。 ・追究してきた内容を、聞く人に分かりやすくまとめて発表する。 ・お互いの発表を聞き合い、比較して、分かったことや気付いたこと、さらに質問してみたいこと等感想用紙に書く。											
第二次	「地域探訪」での学びを生かしながら「美しき里」について考える個人テーマを設定する。(7:本時5/7) ・「文化」「自然」「産業」「歴史」「環境」の各講座を受講し、疑問や気付きを基にして個人テーマを設定する。												
第三次	設定した個人テーマを追究する。(10) ・文献活用、インターネット検索、現地調査、施設訪問、インタビュー等、様々な方法で情報収集を行い、個人テーマを追究する。												
第四次	「美しき里全体発表会」を開催する。(9) ・個人発表会を行い、お互いの発表を聞き合っ、全体発表会の代表者を決定する。 ・全体発表会を開催する。 ・これまでの活動を振り返る。												
(2)本時の学習 地域の「文化」「自然」「産業」「歴史」「環境」について、それぞれが前回受講していない講座を受講し、質問や疑問等をKJ法的な手法で類型化し、個人テーマの設定へつなげていく。													
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; border-radius: 15px;"> <p>受講する講座で、各講師の話聞き、質問や疑問等をワークシートと付箋紙に記入する。質問や疑問を付箋紙に書いたものを模造紙等にKJ法的な手法でまとめ、それらにキーワードを付けて個人テーマ設定の手がかりとしていく。</p> </div>													

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間 第3の2の(2)において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。」と示されている。

また、中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 34ページには「今回の改訂において、言語活動は各教科等を貫く重要な改善の視点である。体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきことである。」とある。

本事例では、地域探訪や、地域の「文化」「自然」「産業」「環境」等についての各講座の開設、地域の関係者へのインタビューや講話の聴講等、様々な体験活動を通して、生徒が感じた地域に関する疑問や地域へのあこがれ等を付箋紙に書き出し、KJ法的な手法を用いて類型化し、個人追究テーマの設定へとつなげていく学習活動を行った。

【言語活動の充実の工夫】 KJ法的な手法で、課題を設定する活動

生徒たちは、これまでに行ってきた「地域探訪」での学びを基に、地域に関する「文化」「自然」「産業」「歴史」「環境」の各講座に分かれ、順にすべてを受講している。

そして、それぞれの講座では、講師が工夫して10分程度にまとめたプレゼンテーションを視聴したり、ゲストティーチャーに質問したりする等の体験的な活動を行った。そうした学習活動を通して感じた疑問や気付きをワークシートと付箋紙に書き出していき、それらの付箋紙を、模造紙の上でKJ法的な手法を用いて、類型化してキーワードを付け、どのような個人テーマを設定して「美しき里」について探究していくかを考える学習活動を行った。

例えば、「環境」講座では、講師が、数本の試験管に入った水を提示し、生徒たちはそれらをじっくり観察する活動から入っていった。それらの水は、地域の公園、田んぼ、川、港などへ流れ込む河口等の水であり、見た目とCODパケットテストの結果との違いや、生徒が予想していた場所による水質のきれいさとの「ずれ」などから、地域の環境への興味・関心を高めた。さらに、環境講座を担当する講師が、地域の海洋施設へ出向き、海洋深層水から精製してきた塩と普通の海水から精製した塩、家庭で使っている食塩等を様々な視点から比較し、どのような違いがあるか、それはなぜか等について話し合う活動を行った。そして、

そこからの疑問や気付き等についてもワークシートや付箋紙に書き出す活動につなげていった。

また、「産業」講座では、生徒たちが市の産業について知っていることをお互いに紹介し、情報交換した後で、その中で出された白はんぺんと黒はんぺんを食べ比べる等の体験的な活動を行った。そして、そこからの気付きやもっと追究してみたいことを付箋紙に書き出し、類型化して模造紙にまとめたものを参考にしながら、ホワイトボードに考えられる追究テーマを書き出していき活動を行っていった。

こうした学習活動を通して、それぞれの講座において「川の水にはどうして汚い水ときれいな水があるのか」「海洋深層水って何?」「黒はんぺんがなぜ白はんぺんより売れるのか」「この地域の人たちはなぜ魚河岸シャツを着るのか」等の個人テーマが設定されていった。

このように、体験的な活動を基に生徒が感じた疑問や気付いたことを付箋紙に書き出し、学習者全体で模造紙にまとめてキーワードを付け、言語を用いて目に見えるかたちに類型化したことが、この後、息の長い追究をしていくことになる個人テーマの設定につながっていった。



思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ， （ 分類番号は P5 表参照）